

【Waris】「活躍フリーランスの幸せ度実態調査」結果のご報告

～ フリーランスという働き方は個人を幸せにするのか？ ～

- 回答したフリーランス 155 名の人生満足度の平均値は 25.9 点 であり、日本人の平均値である 18.9 点と比較すると高い人生満足度が示された
- 収入や働く時間の多寡は個人の幸福度との間に明確な相関は見られず、むしろ幸せに働くうえで影響力が大きかったのは、「今の自分になりたかった自分かどうか」 という項目
- フリーランスとして活躍するためには、「自走性高く案件を完遂する力」や「成果に結びつく専門性・能力・経験」などの業務遂行に直結するスキルはもちろんのこと、「コミュニケーション力」「ニーズ・状況の判断力」「自分を売る力」などの間接スキルも求められる

ハイスキルの女性人材と企業とのジョブマッチングサービスを手掛ける株式会社 Waris（本社：東京都港区 / 代表：米倉 史夏・田中 美和・河 京子 / 以下「Waris」）は、近年増加傾向にあり、また女性の活躍を推進するうえで不可欠な労働形態であるフリーランス人材の幸福度および、フリーランス人材が活躍するうえで必要となるスキルを統計的に把握するため、「活躍フリーランスの幸せ度実態調査」を、2016 年 12 月に実施し、2017 年 5 月 30 日にこれを公表しましたので、お知らせいたします。

2017 年 3 月に発表された「フリーランス実態調査 2017」(ランサーズ調査)*1 によると、国内における広義のフリーランス人材は 1,122 万人となり、今後さらなる増加が見込まれております。また、Waris におけるジョブマッチング状況においても、成約案件の約 7 割をフリーランス人材（業務委託契約）が占めていることから、設立時よりフリーランスの認知度向上にむけた啓発活動や、働きやすい環境整備を目指し支援を行ってまいりました。これらを背景に、本調査では、今後 10 年でフルタイム正社員を中心とした働き方が減り、フリーランスをはじめとする新たな形態の働き方が台頭していくことが予想される中で、フリーランスとして活躍していくためには、フリーランスとして幸せな人生を送るためには、個人はどのようなことを考え、どのようなスキルを身に付けていけば良いのかを、具体的に提示することを目的とし、実施いたしました。

今回の調査では、科学的アプローチで「幸せ」の研究をされている慶應義塾大学 前野 隆司教授のご助言のもと、フリーランスの幸せ度合を人生満足尺度という指標で測りました。

また、香川大学大学院地域マネジメント研究科 吉澤 康代准教授のご協力を得て、活躍できるフリーランスのスキル・特性についても明らかにしました。Waris は、本調査結果を踏まえ、フリーランスが台頭する新たな時代に備え、個人が高い幸福度を保ち、活躍して働き続けるために以下の3点を提言します。

なお、本調査および提言の詳細につきましては、別紙「活躍フリーランスの幸せ度実態調査」に詳しく取りまとめておりますので、ご参照頂けますと幸いです。（*2に記載のURLよりダウンロードいただけます）

Waris は、引き続き多様な働き方の実現を通じて、一人一人が能力発揮し幸せに働くことのできる社会づくりに貢献してまいります。

◆ 「フリーランス実態調査 2017」(ランサーズ調査)*1: <https://www.lancers.co.jp/news/pr/12286/>

◆ Waris アンケート調査について*2

・ 活躍フリーランスの幸せ度実態調査 https://waris.co.jp/data/pdf/170530_Waris_report.pdf

・ 付録(フリーランスのリアルライフアンケート) https://waris.co.jp/data/pdf/170530_Waris_survey.pdf

・ 調査時期：2016年12月5日～2016年12月28日

・ 調査対象：Warisご登録者を中心とする一般回答者（155名が回答）

・ 調査方法：インターネット

・ 平均年齢：40歳（女性93%/既婚82%/子どもあり68%/組織での就業経験者98%）

【 課題意識 】

■ 課題意識1：フリーランスという働き方は個人を幸福にするか？

- ・ 現在フリーランスとして働いている人材は幸福を感じながら仕事に従事しているのだろうか？

■ 課題意識2：フリーランスとして活躍するにはどのようなスキル・特性が必要か？

- ・ 「幸せであること」と「活躍できること」に関連性はあるのか？また、フリーランスとしてクオリティの高い仕事を提供し、活躍するためには、どのようなスキルや特性が必要となるのか？

■ 課題意識3：フリーランスを企業側が活用するうえでの課題は何か？

- ・ 幸福度の高いフリーランスが活躍するためには、フリーランスを活用する企業側の課題を探る必要がある。企業側が抱える課題とは何か？

【 調査結果ポイントと提言 】

■ 提言1：クリアなビジョンが幸せに働く鍵になる！

意外にも収入や働く時間の多寡は個人の幸福度との間に明確な相関は見られませんでした。むしろ幸せに働くうえで影響力が大きかったのは、「今の自分になりたかった自分かどうか」という点です。「幸福度」という観点だけでなく、「活躍」という観点側面からも「ありたい姿・ビジョンが明確」ということが重要なポイントであることが見えてきました。フリーランスとして働くうえでのスキル・経験の重要性については広く言及されることはありませんが、そ

れだけでは不十分です。「自分がどうありたいのか」というクリアなビジョンを持つことをこれからの時代に幸せに働く鍵の一つとして提言します。

■ 提言2：バランス型フリーランス的ワークスタイルで女性活躍を推進！

幸福度が高く、かつ活躍しているフリーランスの方々にヒアリング調査も行いました。いずれもかつては組織で総合職あるいは専門職としてキャリアを積んできた女性たちです。彼女たちは組織の基幹となる職種でキャリア形成してきたものの、ワークライフの充実や、やりたいことの実現のためにフリーランスへ転向しており、現在は「週4日程度、1日4～5時間程度、豊富なスキル・経験を活かした非定型・高度知的業務」で幸せに働き、クライアントから高い評価を得ています。私たちは今回、こうした働き方を「バランス型フリーランス」と名付けました。長時間労働やそれに基づく制度・評価がベースとなる中、育児期人材や短時間勤務人材が能力を発揮できずに退職検討に入っている現状を考えると、このようなキャリアパスを用意することで、スキル・経験を身に着けた女性たちをプロとして活かすことには非常に意味があります。

■ 提言3：社員時代からプロジェクト型ワークで「プロ力」を醸成！

～ 企業も外部人材を取り入れた「プロジェクト型人材活用」でイノベーション創出を！ ～
フリーランスとして活躍するために「自走性高く案件を完遂する力」や「成果に結びつく専門性・能力・経験」などの業務遂行に直結するスキルはもちろんのこと、「コミュニケーション力」「ニーズ・状況の判断力」「自分を売る力」などの間接スキルも求められることがわかりました。厚生労働省発表のレポートでも、今後、プロジェクト型ワークへ従事する人が増えると予測されています。そうした来るべき未来へ企業・個人ともに今から備える必要があります。個人としては会社員時代から「プロジェクト型ワーク」を経験し「疑似フリーランス状態」を経験することで、上記のような直接・間接の「プロスキル」が身につくと私たちは考えています。実際、ヒアリング調査ではフリーランスとして働くうちに上記のような「プロスキル」が自身の中にさらに醸成されたとのコメントが聞かれました。もちろん、会社員としての就労経験はフリーランスとしての活躍を下支えする基礎的なスキル・マインドを養います。企業側は、イノベーション創出という観点で、従業員と外部プロの力をオンラインで有機的に結合させ、必要な専門性やリソース要件が集結したチーム編成でプロジェクトを組成するような取り組みを始めています。企業が競争力を強化するためにも、こうした外部プロの存在を活用した新たな人材活用のノウハウやプロジェクト組成の方法に取り組んでいく必要があると考えます。

【 前野 隆司 氏 プロフィール 】

1984年東京工業大学工学部機械工学科卒業、1986年東京工業大学理工学研究科機械工学専攻修士課程修了、同年キャノン株式会社入社、1993年博士（工学）学位取得（東京工業大学）、1995年慶應義塾大学理工学部専任講師、同助教授、同教授を経て2008年よりSDM研究科教授。2011年4月よりSDM研究科委員長。この間、1990年-1992年カリフォルニア大学バークレー校 Visiting Industrial Fellow、2001年ハーバード大学 Visiting Professor。専門は、幸福学、感動学、イノベーション教育、システムデザイン、ロボティクスなど。『幸せのメカニズム』（講談社現

代新書)、『幸せの日本論』(角川新書)、『脳はなぜ「心」を作ったのか』(筑摩文庫)、『システム×デザイン思考で世界を変える』(日経 BP)、『思考脳力のつくり方』(角川 one テーマ 21) など著書多数。

【 吉澤 康代 氏 プロフィール 】

慶應義塾大学総合政策学部卒業、同大学大学院政策・メディア研究科修士課程修了後、オムロン株式会社のグループ内シンクタンク株式会社ヒューマンルネッサンス研究所に入社。「働き方」をテーマとし、企業に対する属意識と自律意識の研究を発端に、日米のテレワーク・SOHO、オランダのパートタイム、スウェーデンのワーク・ライフ・バランスなどの調査研究を行う。2009年、博士(政策・メディア)学位取得(慶應義塾大学)。2010年より同大学大学院政策・メディア研究科特任講師、2013年より香川大学大学院地域マネジメント研究科専任講師を経て2017年より准教授。最近は「キャリア研修の効果」「キャリアにおける将来展望と将来不安」「ライフキャリアにおけるワークモチベーションのダイナミズム」について研究を進めている。

【 株式会社 Waris について 】

2013年設立。ハイスキルな女性人材と企業との「プロジェクト型ワーク」のマッチング(=女性プロマッチング事業)を主軸に、女性リーダー・管理職候補のための転職支援事業、「働き方改革」「ダイバーシティ推進」等を目的とした調査・研修・コンサルテーション事業も手掛ける。これまでの総合職としての知識・経験を活かしつつ、自由で多様な働き方を実現したい女性たちと、柔軟に優秀な人材を活用したい企業とを結び、女性にプロとしての自由な仕事を、企業に事業スピード向上のため迅速な人材配置の実現を提供。現在ご登録女性数約3,600名、顧客企業約1200社。

本社：東京都港区芝5丁目29-20 クロスオフィス三田806
代表取締役：米倉史夏、田中美和、河京子(以上、共同代表)
URL：<http://waris.co.jp>

株式会社 Waris

住所：東京都港区芝5丁目29-20 クロスオフィス三田806

電話：03-5730-0777 Mail: marketing@waris.co.jp

担当：田中・中野・西原